

小ギクの開花調節

藤原 一道・阿部 潤・金野義雄*

(岩手県園芸試験場・*岩手県立農業短期大学校)

Regulation of Flowering Period on Small Type Chrysanthemum

Kazumichi FUJIWARA, Jun ABE and Yoshio KONNO*

(Iwate Horticultural Experiment Station・
*Iwate Agricultural Junior College)

1 はじめに

近年岩手県内では、水田転作作物として小ギクの栽培が増加している。しかし、一品種当りの採花期間が一週間程度と短いことや、気象の影響で開花期が年によって変動しやすいことなどから、長期出荷を目指す場合は多数の品種を栽培する必要がある。このことが育苗、定植などの作業の煩雑さの原因となっている。そこで、一品種の採花期間を拡大し、栽培品種数を減らすことを目的として、簡易な方法による開花調節技術を8月咲き品種について検討した。

2 試験方法

(1) 定植及び処理月日

定植日	供試苗	エスレル散布	トンネル密閉
1988.10.17	株分け定植	5.8	5.2~5.30
1989.5.1	4.10さし芽	5.10 (1回目) 5.22 (2回目)	5.10~6.7
1989.5.15	4.25さし芽	5.22	5.23~6.19

注. エスレルは300ppmで散布

- (2) 供試品種 さなえ、由美、秋水、もみじ狩、入舟
- (3) 施肥量 N, P₂O₅, K₂O 各15kg/10a, 追肥なし
- (4) 採穂 ポリポット植えの株を冬期間無加温ハウス内で管理し、3月上旬より保温して採穂した。
- (5) 試験規模 秋植え 各処理50株
春植え 各処理20株

3 試験結果及び考察

(1) 定植期

定植期を前年秋とした場合、慣行の5月初旬定植に比べ10~18日平均開花期が前進した。切花長、切花重は増加したが、全体ポリーム過剰になる傾向であった。分枝数は増減があり一定でなかった。供試品種中「秋水」は切花長、切花重とも増加したものの開花期にはほとんど変化がなく、草姿も不良となり秋植えにした場合のメリットが認められなかった。

定植期を慣行より約2週間遅らせ5月中旬とした場合、平均開花期は5~10日遅延した。切花長、切花重、分枝数はいずれも増減して一定の傾向を示さなかったが、草姿なども含めて考えると5月15日定植のものはやや品質が

劣った。

(2) エスレル処理

摘心後又は間引き後にエスレル(300ppm)を茎葉散布した場合、秋定植、5月1日定植区で平均開花期が7日前後遅延した。その際切花長は増加したが、切花重は品種間差が大きく一定でなかった。一方5月15日定植では平均値花期の遅延はほとんどみられず、切花品質についても差がなく、処理の効果が認められなかった。これは、エスレル処理までの間に一定量の高湿に遭遇していたため効果が現れなかったものと思われる。「入舟」で2回散布をした区が1回散布区とほとんど開花期の差がなかったのも同様の理由によると思われる。なお、いずれの場合もエスレル処理による葉害は認められなかった。

(3) ポリトンネル密閉

摘心後又は間引きの後にポリトンネルで4週間密閉処理をした場合、平均開花期が10日前後遅延した。しかし、5月1日定植の「由美」「もみじ狩」では差が小さかった。密閉処理により開花が抑制される分切花長が増加することが予想されたが、逆に減少する例もあり一定の傾向を示さなかった。切花重、分枝数についても同様であった。密閉処理ではポリフィルムに触れた葉が焼けやすく、特に5月15日定植区では高温と乾燥のため多くの個体が枯死した。

同じ定植日でポリトンネル密閉区とエスレル処理区とを比較した場合、大きい差が見られないことが多く、労力、コストを考慮するとエスレル散布のほうが実際的と思われる。

4 まとめ

8月咲き品種について開花調節技術を検討し、以下の結果を得た。

- (1) 定植期を前年秋にすると10~20日開花期が早まり、切花長が長くなった。ただし、品種によっては草姿が不良となり秋植えに向かない場合があった。
- (2) 定植期を通常より2週間遅らせることにより、開花期が7日前後遅れた。切花品質はやや劣った。
- (3) 摘心後又は間引き後にエスレルを茎葉散布することにより開花期が7日前後遅れ、切花長が長くなった。定植期が遅い場合は効果が低かった。
- (4) 摘心後又は間引き後から4週間ポリトンネルで密閉処理することにより開花期が10日前後遅れたが、定植期が

遅いと高温期に枯死などの障害が発生した。

(5) いずれの場合も品種、作業の状況、気象などにより効果に差が生じた。

(6) これらの処理により作期の拡大が可能であったが、品質向上のための技術などが課題として残った。

表 1 採花期、切花品質

品種	定植日 (月.日)	処 理	採 花 期 (月.日)			切花長 (cm)	切花重 (g)	分枝数 (本)
			始	50%	終			
さ な え	10.17	無処理	7.21	7.24	7.28	129.8	95.6	8.0
		エスレル散布	7.25	7.30	8.2	136.2	81.8	7.8
		トンネル密閉	7.31	8.4	8.7	116.1	86.1	12.4
	5.1	無処理	7.30	8.4	8.8	77.4	49.2	11.1
		エスレル散布	8.10	8.12	8.20	82.7	51.4	10.8
		トンネル密閉	8.10	8.12	8.15	89.4	38.4	8.4
	5.15	無処理	8.4	8.14	8.17	75.8	52.6	10.4
		エスレル散布	8.10	8.16	8.22	76.7	44.6	9.5
		トンネル密閉	8.24	8.26	8.27	69.3	71.7	12.0
由 美	10.17	無処理	7.31	8.7	8.12	93.8	110.6	8.0
		エスレル散布	8.7	8.15	8.20	112.2	117.4	5.9
		トンネル密閉	8.14	8.19	8.24	100.5	128.2	9.9
	5.1	無処理	8.17	8.25	8.28	79.9	68.8	12.5
		エスレル散布	8.19	8.25	8.28	80.7	146.1	16.3
		トンネル密閉	8.24	8.28	9.1	82.5	112.6	13.6
	5.15	無処理	8.24	9.3	9.5	72.3	98.9	11.0
		エスレル散布	8.24	9.2	9.4	73.5	75.1	13.7
		トンネル密閉	9.8	9.11	9.13	70.5	120.5	16.0
秋 水	10.17	無処理	8.19	8.24	8.28	125.2	207.7	6.0
		エスレル散布	8.24	8.30	9.2	127.5	198.1	6.5
		トンネル密閉	8.24	8.28	9.2	116.3	219.6	7.5
	5.1	無処理	8.15	8.25	8.31	82.0	111.9	10.4
		エスレル散布	8.24	9.2	9.3	90.8	127.2	9.5
		トンネル密閉	8.28	9.2	9.3	92.1	114.5	9.6
	5.15	無処理	8.24	8.30	9.2	81.2	89.7	13.9
		エスレル散布	8.29	9.2	9.4	82.4	98.1	11.7
		トンネル密閉	8.31	9.4	9.7	74.7	105.2	13.6
も み じ 狩	10.17	無処理	7.30	8.5	8.8	116.5	143.2	7.4
		エスレル散布	8.5	8.12	8.15	119.3	113.9	6.4
		トンネル密閉	8.11	8.13	8.16	105.5	114.7	9.0
	5.1	無処理	8.16	8.23	8.27	77.2	60.5	5.1
		エスレル散布	8.24	8.29	9.1	86.8	116.1	6.6
		トンネル密閉	8.23	8.27	8.31	86.7	84.6	6.0
	5.15	無処理	8.23	9.1	9.4	83.4	75.2	5.7
		エスレル散布	8.27	9.1	9.4	85.8	74.9	5.4
		トンネル密閉	8.29	9.2	9.5	79.3	75.1	6.2
入 舟	10.17	無処理	7.15	7.20	7.24	79.7	74.0	12.8
		トンネル密閉	8.4	8.7	8.10	91.8	81.4	11.6
	5.1	無処理	7.25	8.3	8.5	60.3	35.2	9.5
		エスレル散布(1回)	8.7	8.10	8.15	65.0	54.4	11.6
		エスレル散布(2回)	8.10	8.12	8.15	66.7	50.9	10.5
		トンネル密閉	8.10	8.12	8.15	72.6	61.3	12.3